

Service News [サービス・ニュース]

専門図書館への入口講座 第2回
**国際ビジネス情報の
入手方法**

専門図書館の
所蔵資料や
効果的な使い方を
学ぶ講座です

～ジェットロ・ビジネスライブラリー～

JETRO BUSINESS LIBRARY

- 日時: 2月8日(月) 18:30～19:30
- 場所: ライブラリープラス(3階 グリーンゾーン奥)
- 定員: 10名 ■ 参加費: 無料

ジェットロ・ビジネスライブラリー とは?

ジェットロ(日本貿易振興機構)の海外事務所を通じて収集した世界各国の統計、会社・団体名簿、貿易・投資制度などの基礎的資料、関税率表などの実務に直結する資料等を取り揃えた、国際ビジネスの専門図書館です。

※事前申し込みは不要、当日は直接会場へお越しください。

ドナルド・キーン・センター柏崎の成り立ちから、太平洋戦争中の日本兵の日記との出会い、日本文学への思い、日本人との交友関係などを、講師自ら撮影したキーン氏のインタビュー映像を交えながら紹介しました。キーン氏への尊敬の思いが伝わってくるお話で、キーン氏の研究に対する真摯さや友人たちとの深い結びつきの端を知ることができた講座でした。

講師: 中津義人(ドナルド・キーン・センター柏崎
ブランニングアドバイザー)

「ドナルド・キーンと日記
～日本兵の日記との出会いから
日本文学研究への道のり～」

12/8(火)



講座終了後は3階の関連展示をたくさんの方にご覧いただきました。

【関連展示】「あなたにとって日記とは?」

新年を迎え、新たに日記を付け始めた方もいるのではないのでしょうか。講座と連携した3階ホールの展示では、日記にまつわる質問を用意し、みなさんにお答えいただく参加型の展示を行いました。

Q. 日記をつけていますか?

Q. 日記にまつわる思い出は?

Q. 昔の日記を読み返したりしますか?



▲日記をつけていないの方が、やや多いという結果になりました。

◀どうしても三日坊主になってしまうという方から、夏休みの日記を書きすぎて先生を困らせたなんていう強者まで...いろいろ面白いエピソードが集まりました。

ZONE PICK UP! 3F ブルーゾーン
【アート・言語・文学】の本を集めたゾーン

K O T O B A ～4/15(金)

私たちがコミュニケーションをとるうえで欠かすことのできない「ことば」。普段の生活のなかでは、当たり前に使っている「ことば」の重要性を意識することは少ないかもしれませんが。今回の展示では、知る・伝える・生かすの3つの視点からそれぞれ関連本を集めてご紹介しています。この機会に、改めて「ことば」について考えてみてはいかがでしょうか。



- 「方言」 「めんこい」「むぞい」という意味が分かりますか? 共に「かわいらしい」という意味だそうです。
- 「声で」 話し方やプレゼンテーションの技法など、ビジネスシーンでも役立つような本を集めました。
- 「詠む・綴る」 俳句に短歌、川柳など、ことばを使って楽しむ本をご紹介します。

2月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

- 2F パープルゾーン** 「究極の安らぎ?—風呂・トイレ—」(～5/13) **NEW!**
風呂やトイレについて私たちが抱くイメージは、リラックスする場所、孤独な場所など、実に様々です。今回は、そんな風呂やトイレに関する資料を集め、ご紹介します。
- 2F ホール三角台** 特別展「祖父江慎+コズフィッシュ展:ブックデザイ」関連展示「装幀で選ぶ本—ジャケ読み—」(～3/23) **NEW!**
- 3F グリーンゾーン** 各ゾーン巡回展示「○○論・○○史」(～2/12)
グリーンゾーンには、微生物の生態から宇宙を語る本まで多種多様な本があります。その中から幸福論、食の歴史、モノづくり論など14のテーマにちなんだ本を展示しています。

わたしの1冊
『最新世界の犬種大図鑑』
原産国に受け継がれた420犬種の姿形
藤田りか子 著 リネー・ヴィレス 編集協力
誠文堂新光社 / 2015年

当館スタッフの推薦本をご紹介します。おすすめする人: 施設管理 山田 志保

人類にとって最も古く、友とも呼べる動物、「犬」。その祖先は狼と言われている。その最初の一匹であった狼から、かくも多種多様な犬が生まれた。それらは何処で生まれ、どの様な役割を果たしていたのか。もし、あなたが愛犬に対し何らかの問題を抱えているのなら、彼らのルーツを知ることが解決への糸口になるだろう。

知っているようで知らない「犬」。知らないようで知っている「犬」。犬の扉を、全ての犬の扉を叩く一冊。

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

ブックデザインの第一人者である祖父江慎は、その独特なユルい感性と「うっとり力」あふれるデザインワークにより常に私たちの意表を突く作品を世に送り出してきました。本展では祖父江と氏が主宰するコズフィッシュのブックデザインを通して、フィジカルな「本」の魅力を探ります。

- 展示構成**
- 「コズフィッシュの書庫」 2000冊を超える全装丁本を前後期に分けて展示。
 - 「本の実験室」 アイディアから印刷・製本等まで本造りの様々な工程を紹介。
 - 「漱石室」 現在制作中の『吾輩ハ猫デアル』は後期展示でお目見え。

関連イベント
2/18(木) 対談「造本あれこれそれ話」 ※定員に達した為受付を終了しました。

- 講師: 祖父江慎(グラフィックデザイナー) 白井敬尚(グラフィックデザイナー/武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科教授)
- 内容: 現在第一線で活躍するグラフィックデザイナー、祖父江氏と白井氏。まったくタイプが異なるブックデザインをつくり出す二人が造本に対する考え方を語りあいます。

3/10(木) 鼎談「漱石本制作の舞台裏」

- 講師: 祖父江慎(グラフィックデザイナー) 渡部朝香(岩波書店単行本編集部)、前田耕作(岩波書店製本)
- 内容: 祖父江氏が岩波書店の担当編集者および製作部の方と、新装版制作時の裏話や見どころについて語ります。

【上記いずれも】◎時間: 18:30～20:00(受付18:00～) ◎場所: 地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール) ◎定員: 各200名(申込順) ◎参加費: 各500円 ◎申し込み方法: 電話(03-3502-3340)、Eメール(college@hibiyal.jp)、または来館のうえ1F受付のいずれかにて ①講座名、②お名前(よみがな) ③電話番号をご連絡ください。

〈祖父江慎+コズフィッシュ展:ブックデザイ〉開催情報

1/23(土)～3/23(水) ※前後期で展示替えあり ※休館日: 2月15日(月)、3月21日(月・祝)

前期「cozf編」: 1月23日(土)～2月14日(日)
後期「ish編」: 2月16日(火)～3月23日(水)

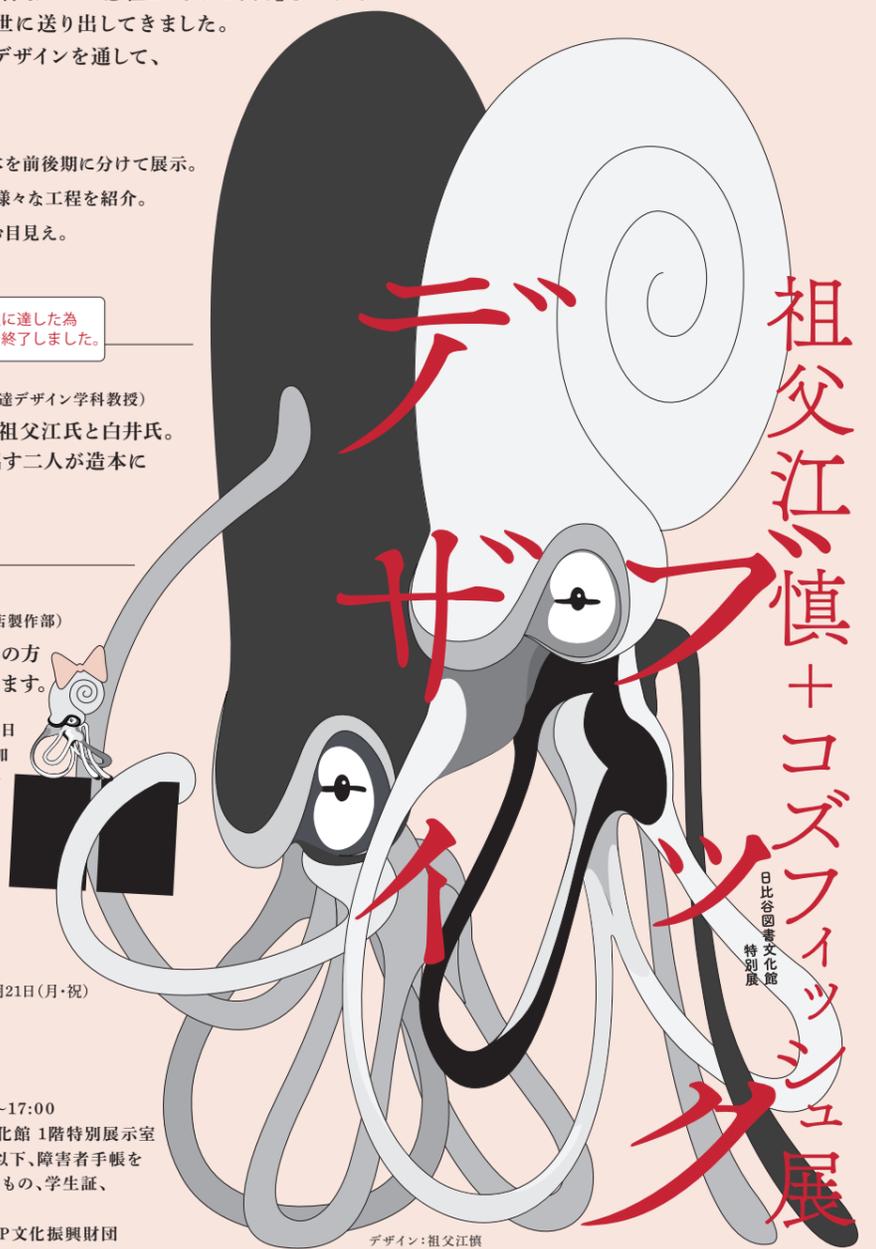
◎観覧時間: 平日10:00～20:00、土10:00～19:00、日祝10:00～17:00 (入室は閉室の30分前まで) ◎会場: 千代田区立日比谷図書文化館 1階特別展示室
◎観覧料: 一般300円、大学・高校生200円、千代田区民・中学生以下、障害者手帳をお持ちの方および付き添いの方1名は無料 ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳をお持ちください。
◎主催: 千代田区立日比谷図書文化館 ◎共催: 公益財団法人DNP文化振興財団

calendar 開館時間: 平日10時～22時 ■ 土曜10時～19時 ■ 日祝10時～17時 ■ 休館日

2016年 2月							2016年 3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						6							
7	8	9	10	11	12	13	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27	20	21	22	23	24	25	26
28	29						27	28	29	30	31		

お問合せ先: 千代田区立日比谷図書文化館
〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4 TEL: 施設代表 03-3502-3340
図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: http://hibiyal.jp

access
都営地下鉄 ●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
東京メトロ ●丸ノ内線 ●日比谷線 ●霞ヶ関駅B2出口 徒歩3分
●千代田線 ●霞ヶ関駅C4出口 徒歩3分
JR「新橋駅」徒歩10分
※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。



2・3月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

参加申込 ■電話(03-3502-3340)またはEメール(college@hibiyal.jp)にて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。当館1階の受付でもご予約を承ります。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

2/1 (月)

丸の内の「まちづくり」の変遷 ～一丁倫敦から東京駅前再開発まで～

講師：東條 隆郎(株式会社三菱地所設計 副社長)

日本初のオフィス街である丸の内。新しい景観はどのように創られ、時代と共にどう変化してきたのでしょうか。明治期に始まり、関東大震災、戦後復興、高度成長期を経て、阪神淡路大震災後の耐震化、建て替え、復元、賑わい創出など、まちづくりの最前線までを語ります。(企画・協力：NPO法人 建築から社会に貢献する会)



復元された三隻一号館

- 日時:2月1日(月)19:00～20:45(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円

2/9 (火)

お江戸ほーりー文化講座 第三弾 新選組ができるまで ～幕末の若者たちはなぜ京都をめざしたのか～

講師：堀口 茉純(文化人・タレント)

お江戸(江戸にくわすすぎるアイドル)ほーりーこと、堀口茉純による「文化講座」第三弾は「新選組」であまり語られない結核を通して、浮世絵を通して、なぜ彼らが新選組を結成するに至ったかに迫ります。(主催：株式会社ネットアドバンス)



- 日時:2月9日(火)19:00～20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■参加費:1000円

2/10 (水)

本を読むことの愉しさ、深さ、おそろしさ(全3回) 第2回「読書のチェス・プレイ ～文学的〈読み〉を勝負する」

講師：小林 康夫(青山学院大学特任教授)
ゲスト：朝吹 真理子(作家)

『知の技法』編者と共に、読書の醍醐味について考えていく全3回講座の第2回。愛する作品をチェスの駒のように用いて行う読書のゲーム。批評と愛が交錯し、その夜、会場はチェスの盤となります!小説の書き手と読み手のあいだでかわされる、激しくも優しい「一手」の応酬をお楽しみください。(主催：上廣倫理財団)



写真提供・新潮社

- 日時:2月10日(水)18:30～20:00(18:00より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名
- 参加費:500円(千代田区民及び学生は無料)

※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

〈第3回予告〉・3月2日(水)18:30～20:00
「言葉の光を求めて～見知らぬ土地を歩くように～」
・ゲスト：黛 まどか(俳人)

2/13 (土)

ピースビレッジ 第39回 「ライフスタイルとしてのピース・アクション」

講師：木戸 寛孝(世界連邦21世紀フォーラム理事長)

現代が直面している社会システムの変化や、今後人類が遭遇するであろうグローバル化した危機を乗り越えるための、新しい価値観を中心としたライフスタイルが必要とされています。そのコンセプトとなる平和とはなにか、21世紀とはどのような時代かを共有したいと思います。



- 日時:2月13日(土)14:00～16:30(13:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■参加費:3000円

〈次回予告〉

ピースビレッジ第40回「幸せの経営学～人材を育成する会社」

- ・日時:3月13日(日)14:00～16:30(13:30より受付)
- ・講師：酒井 稔(事業構想大学院大学・客員教授)

2/17 (水)

HIBIYAイノベーション・キャンパス2015 ワークショップ実践編： 『イノベティブ思考が育つワークショップのデザイン』

講師：富田 欣和(慶應義塾大学大学院SDM研究科特任講師)
渡辺 今日子(慶應義塾大学大学院SDM研究科特任助教)
高坂 有良(慶應義塾大学大学院SDM研究所研究員)

イノベティブ思考を実務に活かしたい方や、上司やチームメンバーをどう巻き込めばよいのかわからずに悩んでいる方にお薦めのワークショップです。「どうすれば関係者の理解を得やすいのか」、「どのようにチームで課題に取り組みれば良いのか」を、多くの企業を支援してきた経験を踏まえてお伝えします。



(共催：慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント(SDM)研究科附属SDM研究所イノベティブデザインセンター)

- 日時:2月17日(水)19:00～21:00(18:30より受付)
- 会場:4階 セミナールームA(会議室)
- 定員:24名 ■参加費:2000円

2/24 (水)

星をたのしむ・冬 ～星と文学

講師：皆川 敏春(星のソムリエ®みたか)
福原 菜穂子(星のソムリエ®みたか)

星空は、私たちに直接物語を語ってくれる一方で、文学の中に描かれたり作家のインスピレーションの源になったりしています。文人たちが見た星空はどのようなものだったのか、宮澤賢治をはじめとする文学作品、短歌、純文学まで、洋の東西を問わず星空の文学の世界にご案内します。



「星のささやきを聴く」皆川 敏春氏 撮影

- 日時:2月24日(水)19:00～21:00(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名
- 参加費:1000円

2/26 (金)

二・二六事件80年「真相 二・二六事件 —日本最大のクーデターの実像に迫る—」

講師：筒井 清忠(帝京大学文学部長)

雪の東京を血で染めた事件が起きてから80年になります。事件は様々な文学や映画で採り上げられてきましたが、この講座では、どうしてこのような事件が起きたのか、青年将校は何を目指していたのか、鎮圧はどう行われ、その後の歴史にどのような影響を与えたのかなど、事件の全貌を明らかにしていきます。



- 日時:2月26日(金)19:00～20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円

「戒嚴司令部の警備」アサヒグラフ臨時増刊『二・二六事件畫報』(1936年/特別研究室所蔵 国産コレクション)

3/3 (木)

江戸歴史講座 第37回 出光美術館「勝川春章と肉筆美人画展」開催記念 日常のなかの非日常 —浮世絵師・勝川春章が描こうとしたもの

講師：廣海 伸彦(出光美術館 学芸員)

役者絵版画で不動の人気を得た春章は、50歳頃から世を去るまで、肉筆の美人画に旺盛な筆をふるいました。彼の美人画の大きな特徴は、日常的で現実的なテーマの中に優美な趣をにじませるところにあります。この講座では、春章が目指した女性表現の理想を考えます。



美人鑑賞図 勝川春章 江戸時代 出光美術館

- 日時:3月3日(木)19:00～20:30(18:30より受付)
- 会場:地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員:200名 ■参加費:1000円(千代田区民 500円)

3/3 (木)

古書で紐解く近現代史セミナー 第19回 日本のグラフ誌のさきがけ 『風俗画報』誌上の江戸東京を歩く

講師：吉田 悦志(明治大学国際日本学部教授)

かつて『風俗画報』の復刻や目録編集に携わり、近世近代の日本文化を研究している吉田氏が、雑誌『風俗画報』の魅力語り、本誌を手に江戸東京をめぐる楽しみ方の例として、「上野」と「神田」を中心にした歴史散歩を紹介します。



共立女子職業学校教場の図(『風俗画報 第193号』/東陽堂/1899年)

- 日時:3月3日(木)19:00～20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール)
- 定員:60名 ■参加費:1000円(千代田区民 500円)

3/5 (土)

バリアフリー映画会『舟を編む』

音声ガイドと字幕によって、視覚や聴覚に障がいのある方も一緒に楽しめるバリアフリー映画を上映します。作品は三浦しん原作の『舟を編む』(2013年)。※どなたでもご参加頂けます。通常の映画と異なり音声ガイドと字幕がつきますのでご承知置ください。



2月5日(金)より受付開始

- 日時:3月5日(土)14:00～16:30(13:00より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員:60名 ■参加費:無料
- ※手話通訳をご希望の方は、2月20日(土)までにお申込みください。
- ※車椅子スペースをご希望の方は、申込時にお申し出ください。

3/9 (水)

『ナルニア国物語』を読む —C・S・ルイスからのメッセージ

講師：安藤 聡(大妻女子大学比較文化学部教授)

『ナルニア国物語』の作者C・S・ルイス(クライブ・ステープルス・ルイス)の本職はオクスフォード大学の研究員(中世・ルネサンス文学)であり、キリスト教に関するエッセイでも人気を博していました。そのルイスがなぜ『ナルニア国物語』を書いたのでしょうか。作品に込められたメッセージを解説します。



ルイスが30年間研究員を務めたオクスフォード大学 モードリン・コレクション

- 日時:3月9日(水)19:00～20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員:60名 ■参加費:1000円

3/16 (水)

日比谷で学ぶ和の文化 神田明神 その祭礼と歴史

講師：岸川 雅範(神田神社 権禰宣)

天平2(730)年に創建。江戸時代には総鎮守として人々の信仰を集めた神田明神。江戸三大祭に数えられる神田祭でも知られています。そんな神田明神の成り立ちや、江戸時代における庶民との関わり、神田祭についてお話いただき、更には日本の伝統文化として神社や神社で行われる祭礼、年中行事などについて学びます。



- 日時:3月16日(水)19:00～20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員:60名 ■参加費:1000円

3/18 (金)

千代田区民講座 認知症は治る!?

講師：林 勝彦(科学ジャーナリスト、元NHKエグゼクティブ・プロデューサー)

認知症は絶対に治らないのでしょうか。厚生労働省は認知症とその予備軍とされるMCI(軽度認知症)人口を862万人と発表しています。これは65歳以上の4人に1人の割合です。認知症は誰でもかかりうる身近な病気ですが、軽度の場合は改善する可能性があるのです。大好評を博した「脳と心」「長寿とガン」「胃腸とストレス」の各講座に続き、認知症とその予防法などについて、具体例を紹介しながら映像を駆使して探ります。(主催：神田雑学大学)



- 日時:3月18日(金)19:00～20:30(18:30より受付)
- 会場:4階 スタジオプラス(小ホール) ■定員:60名 ■参加費:無料

※2月5日(金)千代田区民受付開始。区民以外は2月12日(金)から受付開始。

● 特別研究室企画展示 ●

雑誌『風俗画報』で楽しむ明治期の東京めぐり

▶3月20日(日)まで開催中

明治22年から大正5年まで発行された『風俗画報』は日本のグラフ誌のさきがけといえる雑誌で、江戸の面影や激変する明治期の記録を絵画を使って後世に残すことを目的に刊行されました。本展示では特別研究室で所蔵する『風俗画報』の臨時増刊「新撰東京名所図会」を中心に、そこに描かれた明治期の東京と人々の姿を紹介します。



▲麹町永田町の図(『風俗画報 第189号』/東陽堂/1899年)

LIBRARY SHOP & CAFE HIBIYA

■ ライブラリーショップ&カフェ日比谷 ■

12月より開催されていた『東京人』バックナンバー全種類!フェアが好評の裡に終了したライブラリーショップでは、現在開催中の特別展「祖父江慎+コズフィッシュ展:ブックデザイン」にあわせ「祖父江慎+コズフィッシュ」が装丁した本を集め展示、販売中です。ぜひこの機会をお見逃しなく。



▲漱石『心』(2014年岩波書店) 装丁:祖父江 慎

◆ ポモロ一広報室より ◆

本の重さや読む場所を気にせず、言葉の意味もすぐに調べられる電子書籍の登場はとても便利で読書が身近になりました。とはいえ、紙の感触やインクのおい、めくるページが終わりに近づいた時の名残惜しい気持ちなど、紙の本でしか味わえない魅力があります。特別展「祖父江慎+コズフィッシュ展:ブックデザイン」では、アイデア、紙、文字、印刷など様々なプロセスにおいて1冊1冊に込められる情熱をお届けしています。ブックデザインによって輝く「本の魅力」を是非ご覧ください。